

「蔵前理科教室ふしぎ不思議」大好評

「蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称 くらりか)」は、児童に理科に対する興味を呼び覚ますために、蔵前工業会の公益事業の一環として傘下組織である蔵前技術士会と神奈川支部の有志が本年5月に結成したボランティア・グループです。現在、メンバーはこの分野では著名な江口宏明氏(32 電気) 神崎夏子氏(50 博化) 近藤敬氏(会員外)を含む14名です。

8月24日、東京都大田区田園調布2丁目児童館のご厚意で初めての教室を開催しました。出席者は3年生と4年生の児童16人と児童館の先生4人、当方の参加者はリ・ダ・の佐鳥聡夫(36 機)に江口(前出) 尾島正男(32 化工) 荒牧國弘(35 化工) 田中満生(37 化工) 海老名敬輔(38 化工)の6名。

実験は500ccのペットボトル、金魚型の醤油差し、ナットなどを素材とした「浮沈子」で、児童各人が金魚に色付けをし、醤油差しの中に入れる水を加減して浮力の調整を工夫した浮沈子をつくり、それをペットボトルの中に入れて外側からペットボトルを押さえたり放したりするたびに浮沈子が昇降すると喜色満面、大歓声を挙げる喜びようです。遅い昇降速度を速くしたり、数個入れた浮沈子の異なる昇降速度の調整に夢中になる子供も多く、子供達の理科離れを云われている昨今の現実とはほど遠い感じでした。

この後、佐鳥リ・ダ・による締めとして、「比重と浮力」の原理を逸話や事例を交えたわかりやすい解説があり、大好評の内に終了しました。また、今回の教室に出席された他の児童館の先生から11月実施の申し入れがあり、引き続き準備に入ります。

詳細はホームページ(URL：<http://vs.kuramae.ne.jp/krpe/kurarika.html>)をご覧ください。

田中満生(37 化工)記

